

栄養科学科における初年次教育プログラムの変容と その成果に関する一考察

萩 尾 久美子

A Study on the Changes and Results of the First Year Education Program in the Department of Nutrition Science

Kumiko Hagio

(2019年11月27日受理)

1 はじめに

本稿では、栄養科学科における初年次教育の変容とその成果を論じることで、今後の方向性を検討しようとするものである。まず、栄養科学科における初年次教育の立場を確認した上で、これまで進めてきた初年次教育の取り組みを概観し、管理栄養士養成機関ならではの初年次教育の課題の整理と、今後の方向性について検討する。

2 栄養科学科における初年次教育の位置づけ

栄養科学部は、平成22～23年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム（特色 GP）の採択を受け、『患者の行動変容を導く管理栄養士の育成—附属医療施設「栄養クリニック」での早期臨床体験模擬患者実習を基盤とした実践教育—』の取り組みを行った。その取り組みでは、患者や患者予備軍の行動変容を導き出す能力を備えた、特定保健指導に対応できる管理栄養士の養成システムを構築し、「患者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力」、および「抱える問題点を正しく把握するための知識」の習得を目標とした（下線は筆者）。これらの取り組みは、管理栄養士の養成に直接かかわるもので「導入教育」「キャリア教育」としての意味合いが強いものである。これらの新しい取り組みがうまく機能するために着目したのが、2000年代以降急速に注目を集めはじめた初年次教育である。この初年次教育は、「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新生を対象に総合的につくられた教育プログラム」と中央教育審議会

答申（2008）で定義されている。

そこで、最近まで「高校生」であった新生を、学習能力や意識の上でも「大学生」と呼べるような存在になるようにと導く（藤田2006）ために、学修者の意識の転換を図ることを主たる目的として、栄養科学部における初年次教育が始まったのである。

3 本学科における初年次教育の経緯

特色 GP で企図された二つの取り組みを支えるために、管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した教育課程のもと、推進可能な初年次教育を構築することが課題となった。本学科の学生は、卒業時には管理栄養士国家試験受験資格のほか、教職課程を履修すれば栄養教諭ならびに中学校・高等学校教諭一種（家庭）の免許取得も可能である。複数の免許資格の取得を可能とする教育課程であることから、限られた時数の中で効果的に初年次教育を進めることが求められた。

そこで、通常の授業コマで開講するのではなく、入学時点のオリエンテーション期間をも含む早い段階から、初年次教育プログラムを開始するものとして、その取り組みが始まった。

(1) パイロットスタディーとしての初年次教育

特色 GP 後の平成23年度入学生に対し、初年次教育をパイロットスタディーとして進めるため、新生の中から希望者を募り実施することとした。初年次教育の構想は、1年次の指導主任を主たるメンバーとして計画された。学士課程教育の充実を提言する中教審答申（2008）の中で、教育方法の具体的な改善方策として、「学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法を重視し、例え

資料1 パイロットスタディーの概要

目的：平成24年度以降の本格的実施に向け試行し、結果の解析から、より効果的な実施方法を検討する。
 対象学年：1年次生（希望者）
 チューター：講師以上の専任教員（希望者）
 課題：「旅行コーディネーターとして南九州4日間の家族旅行を企画する」

ば、学生参加型授業、協調・協同学習、課題解決・探究学習などを取り入れる。（下線は筆者）」と示されたことを受け、課題解決型の学修を初年次教育の中軸に据えることとした。初年次教育の担当者を誰にするかについては、対象が新入生全員であり、管理栄養士となるための基盤にかかわることから、原則、本学部の教員全員で指導に当たることになった。

そこで、「多様な学生たちを速やかに大学生活に移行させること」を初年次教育の目的とし、2001年の導入から4年の指導実績がある徳島大学医学部医学科のチュートリアル教育（寺嶋 2005）を参考に、教育方法をPBL-T（Problem based learning-Tutorial）とし、学生が自学自習によって課題を解決する問題解決型の学修と、少人数の学生グループを一人の教員（チューター）が担当するチュートリアルシステムとを組み合わせて試行（資料1）することとした。

本学部の初年次教育がスタートした翌年に、中央教育審議会答申（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて一生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」が示され、アクティブ・ラーニングへの転換が大きく注目されるようになったことは言うまでもない。

(2) 本学科の初年次教育の構想

平成23年度のパイロットスタディーを経て、現在では新入生の早い段階から開始するよう、次のような考え

のもとスケジュールを確立している。

初年次教育の目的「多様な学生たちを速やかに大学生活に移行させる」ため、早い段階で学修への動機付けを図ることとし、学修意欲を高位に持続するよう、入学式の翌日から短期間に次々とプログラムを設定している。

プログラムの内容については、国立教育政策研究所「大学における初年次教育に関する調査」（2007）で示された選択肢を参考に、①スタディ・スキル系、②スチューデント・スキル系、③オリエンテーションやガイダンス、④専門教育への導入、⑤教養ゼミや総合演習など学びへの導入を目的とするもの、⑥情報リテラシー、⑦自校教育、⑧キャリアデザインの八つの領域の中から、①のスタディ・スキル系を中心に、「自立した自己学習の基礎」「図書館の利用・文献検索の方法」「レポートなどの書き方などの文章作法」「プレゼンテーションなどの口頭発表の技法」「友人関係の拡大」「教員との適切なコミュニケーション能力」にウェイトを置いたプログラムとしている。

4 初年次教育において設定する課題について

初年次教育の方向性を考える中で、「どのような課題を取り上げるべきか」について、近い将来、管理栄養士を目指すからには、「健康や栄養などの専門分野から取り上げるべき」との意見が多かったが、「入学直後の専門性が未だ分からない段階で、専門分野から取り上げることに意味があるのか」「担当する教員でさえ、専門以外の者が多く指導できるのか」など、様々な議論を踏まえ、最終的に、課題は「学生自身が積極的・能動的に問題解決に取り組んだかを評価できるもの」と考えることとし、管理栄養士養成とは切り離し、「旅行コーディネーターとして南九州4日間の家族旅行を企画する」という統一課題を設定することとなった。パイロットスタ

表1 令和元年度 初年次教育のタイムスケジュール

(19N 学生)

4月		5月	
日程	内容	日程	内容
2日	入学式 学科会議（今年度の概要説明）	10日～16日	■第2回チュートリアル 初年次教育会議 (合同報告会での代表者選考) ■合同報告会 学科会議（合同報告会の報告）
3日	新入生オリエンテーション ■第1回学生説明会	23日	
9日～10日	■新入生宿泊研修（1・2クラス）	29日	
10日～11日	■新入生宿泊研修（3・4クラス）	30日	
11日・12日	■図書館オリエンテーション		
17日	■第2回学生説明会（課題の提示）		
18日	チューターに関係資料配付・依頼		
19日～25日	■第1回チュートリアル		
20日～26日	■自主学修期間（3週間）に入る		
以降			

ディー以降の課題については、表2のとおり。

平成27年度からは、複数の課題から選択する形式を取り、チュートリアルグループ（概ね10人程度）内での発表をとおして、担当した課題以外の情報に数多く触れ、他者の良さを学ぶことで、正解が一つに定まらない課題を考察する重要性に気付く機会とした。初年次教育の指導経験を重ねてきた結果、平成27年度には課題設定の見直しを図り、管理栄養士として働く卒業後の現実社会で出会うだろうリアルな課題を意図的に取り上げるような方向性に転換した。最近では社会的課題に大きくシフトしており、キャリア教育としての価値に気付く学生も少なくない。

5 初年次教育をすすめる上での教材作成

教科書からよりよく学習し、その知識を個別の情報として扱うような大学入学前に抱いていた学習観に揺さぶりをかけるため、新しく獲得した知識や情報を、既存知識や先行経験と関連づけ、新しいアイデアを生み出すことの価値に気付けるよう、様々な教材を作成した。なお、初年次教育がより深い学修となるよう、足場かけの考えに基づき教材提示のタイミングも工夫していった。

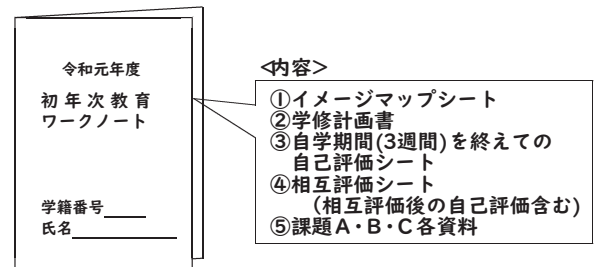
パイロットスタディー後の平成24年度からは、学部の講師以上の専任教員全員が初年次教育を担当すること

となり、初年次教育を専門としない教員に対する支援体制を整える必要から、指導のマニュアルとして「初年次教育指導の手引き」（荻本2019）を、また、学修教材として学生自身の学びを支える「初年次教育ワークノート」（萩尾2019）を作成していった。

本稿では、学生の学びをどのように支え導いていくのかが分かるよう、学生が手にする教材を詳しく説明する。ここで示しているワークノート資料は、「令和元年度 栄養科学科 初年次教育ワークノート」（資料2）からの抜粋である。

(1) 第2回全体説明会で提示する課題資料

課題を提示しただけでチュートリアルを進めても、自主学修を終えて提出された発表資料からは学修の深まりが感じられず、調べ学習程度のものが少なくなかった。そこで、課題のあり方と提示の仕方を見直すことと



資料2 初年次教育ワークノート（クリアフォルダタイプ）

表2 初年次教育 実施年度別「課題」の一覧

実施年度	課 題	
平成23年度	統一	○
	選択	
旅行コーディネーターとして南九州4日間の家族旅行を企画する		
平成24年度	統一	○
	選択	
旅行コーディネーターとして南九州4日間の家族旅行を企画する		
平成25年度	統一	○
	選択	
オーストラリアの大学生に“日本の食”を紹介する		
平成26年度	統一	○
	選択	
小学6年生に“和食のよさ”を伝えよう		
平成27年度	統一	
	選択	○
①高齢社会における医療に関わる問題を考えよう ②管理栄養士は、働く世代のメタボ予備軍にどのように働きかければよいか考えよう ③他学部の学生に“和食のよさ”を伝えよう ④体験入学の高校生に“学園祖中村ハル先生”の足跡を紹介しよう		
平成28年度	統一	
	選択	○
①地域に住む高齢者の健康福祉につながるショッピングモールを構想しよう！ ②訪日旅行者（インバウンド）向けに日本の新しい魅力を体験できる旅行プランを提案しよう！ ③来訪者に、中村学園のよさが伝わるような体験型の学内案内プランを提案しよう！		
平成29年度	統一	
	選択	○
①買い物弱者が多い高齢者の健康（健幸）福祉につながる応援プランを提案しよう！ ②日本文化の魅力を体験できる本学のよさを生かした独自のプランを提案し、訪日旅行中の学生（中高生含む）を中村学園に迎えよう！ ③毎月最後の週末（プレミアムフライデー）を豊かに演出する魅力的なサービス（or イベント）を提案しよう！		
平成30年度	統一	
	選択	○
①買い物弱者が多い高齢者のために、健康（健幸）福祉につながる移動販売車の運用プランを提案しよう！ ②訪日旅行者にコト消費型の『日本文化の魅力を体験できるプラン』を提案しよう！ ③支援が必要な子どもたちが安心して集える『子ども食堂』の運用プランを提案しよう！		
令和元年度	統一	
	選択	○
①学校の空き教室を利用した、地域に住む高齢者の健康（健幸）福祉につながる集いの場のプランを提案しよう！ ② Rugby World Cup 2019を観戦するために福岡を訪れた訪日旅行者に、コト消費型の『日本文化を体験できる旅行プラン』を提案しよう！ ③地域住民（子育て世代や介護世代、一人暮らしのお年寄り等）が抱える課題の解決につながり、地元で安心して暮らせるような駅ビル（もしくは駅チカ）のプランを提案しよう！		

なった。統一課題として提示していたものを、現実社会で出会うリアルな課題に転換していく中で、協調学修のよさを取り入れ、複数設定した課題から選択する方式に変更していった。現在は、第1回チュートリアルの際に、くじで3つの課題から一つを選択するようにしている。チュートリアル開始前ではあるが、これからスタートするチュートリアルへの動機付けとするために、ある程度の課題解決にかかる周辺情報（ヒントとなる活動や資料、視点など）をキーワードとして課題資料（資料3）として示し配付していくこととした。

実際のところ、全体説明会を終えた会場では、この資料を手に学生たちが話し込む様子が見受けられるようになった。

(2) 学修計画書

第1回目のチュートリアルでは、はじめて出会うグループメンバーとの交流のきっかけとなるようアイスブレーキングを設定している。その後、資料4に示したように、学生が与えられた課題を自分事として捉えられるよう、自己のテーマを設定させていく。短時間で自分なりのテーマを絞り込むには難しさがあるので、思考の関連付けを助けるためのシンキングツールとして、イメー

ジマップを活用している。このツールは、新入生の8割近くは使ったことがあると答えているので、使ったことがない学生のことを考え、全体説明会でイメージマップを簡単に紹介するようにしている。

第2回チュートリアルまでの3週間で課題解決を図らなければならないので、この実施予定を組む計画書づくりは重要である。ただ、学修計画書の目的に適っていないものが少なくなかったため、この問題点を解決するための手立てとして平成30年度から新たに加えたものがB4横1枚の課題別資料（※学校における新聞の2次利用は認められているが、本稿では許諾を得ていないため不掲載）である。この資料では、学生がもっと新しいことを知りたくなったり、実地に足を運ぶ必要性に気付いたりするように、課題解決につながる新聞記事（現実社会を反映したリアルな情報）を複数紹介している。

学修計画書ができた段階で、グループ内で発表の機会を設定しているので、自己の意見や考えをもとに他の学生の計画案を聞いた上で、妥当なものか、他の見方や考え方はないか、それを取り入れたらどうかなどと吟味できるよう工夫している。

<p>課題A 「学校の空き教室を利用した、地域に住む高齢者の健康(健幸)福祉につながる集いの場のプランを提案しよう！」</p> <p><具体的な内容></p> <p>(1) 発表方法 資料(A4サイズ片面印刷、1枚)を示しながらのプレゼンテーションとする。</p> <p>(2) 発表時間 一人あたりのプレゼンテーションの時間は5分</p> <p>(3) 課題について 大テーマは上に示したとおりですが、切り口は自由です。 あなたの問題意識、興味や関心、得意な分野等を生かし、大テーマを踏まえて追究したい各自の小テーマを設定してください。応援するプランの内容は、「楽しくって、待ち遠しい」「元気になる」「生き甲斐、やり甲斐がある」など自由に考えて構いませんので、地域に住む高齢者の健康(健幸)福祉につながるプランを具体的に企画し、提案してください。</p> <p>(4) 関連情報キーワード 健康寿命、健康日本21、ヘルスプロモーション、健幸、スマートシティ、シニアボランティア、シルバー人材センター、学童保育、シニア食堂、買い物弱者、フードバンク、フードドライブ、共生社会、自助・共助・公助 etc.</p> <p>(5) その他 限られた時間内で分かりやすく伝える工夫をしてください。</p>	<p>課題C 「地域住民(子育て世代や介護世代、一人暮らしのお年寄り等)が抱える課題の解決につながり、地元で安心して暮らせるような駅ビル(もしくは駅チカ)のプランを提案しよう！」</p> <p><具体的な内容></p> <p>(1) 発表方法 資料(A4サイズ片面印刷、1枚)を示しながらのプレゼンテーションとする。</p> <p>(2) 発表時間 一人あたりのプレゼンテーションの時間は5分</p> <p>(3) 課題について 大テーマは上に示したとおりですが、切り口は自由です。 あなたの問題意識、興味や関心、得意な分野等を生かし、大テーマを踏まえて追究したい各自の小テーマを設定してください。駅は、地方都市の公共交通機関として機能しており、市の中心部に位置し、にぎやかな界隈にあるものとします。駅前にはローグリーが整備され、広い駐車場もあるなど、寄りつきがよいという特徴はもっていますが、駅ビルの規模など(〇階建て・平屋もあり)は問いません。子育てや介護、老後の不安が少しでも解消され、安心して暮らすことができるようなプランを企画し、提案してください。</p> <p>(4) 関連情報キーワード 待機児童、保育園への送迎、子どもの貧困問題、ダブルケア、地域の保健室、介護保険制度、地域包括支援センター、買い物弱者、地域食堂、フードバンク、フードドライブ、社会貢献、NPO、ボランティア、シルバー人材センター、シニアボランティア、自助・共助・公助 etc.</p> <p>(5) その他 限られた時間内で分かりやすく伝える工夫をしてください。</p>
<p>課題B 「Rugby World Cup 2019を観戦するために福岡を訪れた訪日旅行者に、コト消費型の『日本文化を体験できる旅行プラン』を提案しよう！」</p> <p><具体的な内容></p> <p>(1) 発表方法 資料(A4サイズ片面印刷、1枚)を示しながらのプレゼンテーションとする。</p> <p>(2) 発表時間 一人あたりのプレゼンテーションの時間は5分</p> <p>(3) 課題について 大テーマは上に示したとおりですが、切り口は自由です。 あなたの問題意識、興味や関心、得意な分野等を生かし、大テーマを踏まえて追究したい各自の小テーマを設定してください。日本文化の内容はとくに問いません。プランの設定は、半日プラン(午前・午後・夜間)もしくは1日プランとします。日本文化の魅力を味わうことができる『体験』を含む具体的なプランを考えてください。体験場所は九州・沖縄を想定しています。リピーターとして何度も九州を訪れたいような魅力的なプランを具体的に企画し、提案してください。</p> <p>(4) 関連情報キーワード 訪日旅行者(インバウンド)、コト消費VSモノ消費、茶・華道、書道、和食、食べ物、料理、居酒屋、屋台、お祭り、忍者、日本刀、日本家屋、布団、温泉、銭湯、ナイトタイムエコノミー etc.</p> <p>(5) その他 限られた時間内で分かりやすく伝える工夫をしてください。</p>	<p style="text-align: center;">Memo 配付資料についてはカラーでも可。ただし、評価の対象にはしない。</p>

学籍番号 19N _____ 氏名 _____

実施：() 曜 () 限目
担当教員名：() 先生

令和元年度 栄養科学科初年次教育 課題解決にかかる学修計画書

<第1回>

課題	A	「学校の空き教室を利用した、地域に住む高齢者の健康(健康)福祉につながる集いの場のプランを提案しよう!」
	B	「Rugby World Cup 2019を観戦するために福岡を訪れた訪日旅行者に、ゴト消費型の『日本文化を体験できる旅行プラン』を提案しよう!」
	C	「地域住民(子育て世代や介護世代、一人暮らしのお年寄り等)が抱える課題の解決につながり、地元で安心して暮らせるような駅ビル(もしくは駅チカ)のプランを提案しよう!」

※該当に○を

自己のテーマ：

計画書(実施予定表)	月 日()	1. 調査 課題を解決するため、調査する項目や内容を具体的にあげて、箇条書きにしてみよう。
	月 日()	
	月 日()	2. 実践 課題を解決するための方法を具体的に考えよう。
月 日()		
月 日()	3. まとめ 課題解決の結果を資料にまとめ、学生発表にそなえよう。	
月 日()		

◆本日の報告会后に記入◆
ほかのメンバーのテーマや学習計画を聞いて考えたことや取り入れたいこと、自分のテーマや計画の反省をまとめておこう!!

担当教員サイン _____

資料4 学修計画書

(3) 自己評価シート

第2回チュートリアルのはじめに、3週間にわたる自主学修期間を振り返るための自己評価シート(資料5)を記入する。振り返りが感覚的な感想に終わらないよう、本学科が学生に身に付けさせたい指導目標を評価規準にすえ、その項目ごとに4段階の尺度で答えるよう工夫している。

(4) 相互評価シート

自己評価を終えると直ちに、自主学修の成果をまとめたA4レポートをもとに学生発表に移る。グループ内の学生は、その発表を聞きながら相互評価シート(資料6)を用いて評価を進めていく。発表者の言葉や態度を聞いたり見たりしながら評価することで、自分の考えを確かめたり、自分の考えと他者の考えとを組み合わせたりすることができる。このような相互評価の機会を設定することで、課題に対する理解の程度が深まったり、パフォーマンスの質が発表の成果に影響したりすることに気付くようになる。

また、この相互評価シートの最後に、再度、自己評価を位置づけている。資料5の自己評価とは異なり、先程まで他者の発表を評価していた眼差しを自分に向けさせることを企図しているため、同じ相互評価シートの項目を用いている。相互評価に自己評価を組み合わせること

令和元年度 栄養科学科初年次教育にかかる自己評価シート

<第2回 自己評価>

この自己評価シートは、成績とはまったく関係ありません。自分の正直な気持ちにしたがってこれまでの取り組みを振り返りながら、5分間で自己評価してみましょう。
※ 深く考え込まずに、直感を大切に!

4点満点で評価(該当の数字にマークを)し、合計を出してみよう。	点 数	
1 評価について	・自己のテーマ設定について、いろいろな視点から十分検討したか。	① ② ③ ④
	・計画に無理がなく、期間や方法等についてよく検討したか。	① ② ③ ④
	・課題に沿ったもので、解決するための方法が具体的に考えられているか。	① ② ③ ④
2 実施について	・手順よく実施でき、期間や方法等が適切であったか。	① ② ③ ④
	・課題を解決することができたか。	① ② ③ ④
	・実施過程の記録(資料の保存等を含めて)をきちんとまとめているか。	① ② ③ ④
3 まとめ	・自分として一生懸命取り組んだか。	① ② ③ ④
	・課題を解決するやり方を自分なりに理解できたか。	① ② ③ ④
4 感想		
5 今後の課題や抱負		
合計		点 (32)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	↓ ※自分の課題を正しくマークすること	
N	N		※自分の課題を正しくマークすること
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	課題 (A)・(B)・(C)		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	実施日 ()月()日()曜()限		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	担当教員名 _____ 先生		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
↑	※左欄にも記入し正しくマークすること	氏 名 _____	
学籍番号 _____	N _____		

資料5 自己評価シート

令和元年度 栄養科学科初年次教育 学生発表にかかる相互評価シート

<第2回 学生発表 ~相互評価~>

ほかの学生の発表を聞きながら相互評価(4点満点)をして、これからの自分の学生生活に役立つヒントをつかもう。

学籍番号	氏 名	課 題	内 容	資 料	発表の仕方	課題解決の方法として、参考にしたいことをまとめてみよう。
1:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
2:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
3:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
4:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
5:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
6:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
7:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
8:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	
9:19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	

<学生発表 ~自己評価~>
学生発表が終わってから、改めて自分の発表を自己評価してみましょう。

学籍番号	氏 名	課 題	内 容	資 料	発表の仕方	他の学生と自分の発表との差を特徴など、気づいたことや感じたことをまとめておこう。
19N		A・B・C	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	↓ ※自分の課題を正しくマークすること	
N	N		※自分の課題を正しくマークすること
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	課題 (A)・(B)・(C)		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	実施日 ()月()日()曜()限		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	担当教員名 _____ 先生		① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
↑	※左欄にも記入し正しくマークすること	氏 名 _____	
学籍番号 _____	N _____		

資料6 相互評価シート

で、学生自身に「自分をモニターする姿勢が身に付く」(水越1995)と考え工夫を試みたのである。

6 初年次教育の成果について

パイロットスタディー後の平成24年度から、この初年次教育をよりよいものとするために、学生に対して第1回全体説明会時に事前調査(資料7)を、事後調査(資料8)は第2回チュートリアル終了時に実施している。また、全体説明会終了時には、自由記述による初年次教育に対する調査を実施している。例年、これらの調査の分析結果をもとに初年次教育のプログラム内容の検討を重ねている。例えば、前年度(平成30年度)の自由記述による学生の感想や意見・要望の結果は、資料9のとおりであったことから、今年度は第2回全体説明会の際に、「就活で問われる正解のない時事問題」を取り上げたNHKニュース映像(平成31年2月28日放送)をプログラムに取り入れるなどの工夫を加えた。

今年度の事前・事後調査の分析結果は、図1のように「新しい知見を創造する力」「教養(専門分野に限定されない幅広い知識)」の2項目($p<.01$)と、「課題を設定する力」「自分で調べる力」「思考力」「能動的な姿勢

「課題解決に向けて深く追求する力」「事実や考えを人に伝わるように文章で表現する力」「事実や考えを人に伝わるように口頭で表現する力」の7項目($p<.05$)について意味のある差が見られた。

7 今後の方向性

パイロットスタディーから数えて7年目の平成29年度に単位化され、「初年次教育」「アーリーエクスポージャー」「ヘルスチェック」の3つの内容からなる新設科目「初年次教育演習」としてスタートしている。管理栄養士としての導入教育的色彩の強い「アーリーエクスポージャー」「ヘルスチェック」とともに1科目に統合されたことから、今後は導入教育的要素を減じながら、現在、指導が十分でない「宿泊研修」「図書館オリエンテーション」の二つに着目し、初年次教育の中に価値付けを図るなどの検討をしていくべきであろう。

8 終わりに

本稿では、これまでの栄養科学科における初年次教育を振り返りながら、パイロットスタディー以降の経緯を

栄養科学科 令和元年度入学生 初年次教育 事前調査	
※ この調査は、成績とはまったく関係ありません。自分の正直な気持ちにしたがってこたえてください。	
1. 「決まった正答のないような課題を自分の力で解決する学習」について、小学校・中学校・高等学校における経験はどれくらいありますか? 次の4段階(「①全くない」「②あまりない」「③だいたいある」「④十分ある」)から最も当てはまるものを1つ選んでマークしてください。	
(1) グループ活動として、課題を解決する学習をした経験	① ② ③ ④
(2) 個人の活動として、課題を解決する学習をした経験	① ② ③ ④
2. 次の(1)~(12)の能力や態度について、現時点では、どれくらい身に付いていると思いますか。次の4段階(「①全くない」「②あまりない」「③だいたいある」「④十分ある」)から最も当てはまるものを1つ選んでマークしてください。	
(1) 課題を設定する力	① ② ③ ④
(2) 自分で調べる力	① ② ③ ④
(3) 思考力(考える力)	① ② ③ ④
(4) 判断力(ものごとを正しく理解して自分の考えを決める力)	① ② ③ ④
(5) 能動的(自分から積極的に働きかける)な姿勢	① ② ③ ④
(6) 勉学に対する意欲	① ② ③ ④
(7) 課題解決に向けて深く追求する力	① ② ③ ④
(8) 新しい知見を創造する(知識をつくり出す)力	① ② ③ ④
(9) 事実や考えを人に伝わるように文章で表現する力	① ② ③ ④
(10) 事実や考えを人に伝わるように口頭で表現する力	① ② ③ ④
(11) 広い視野(範囲)から、ものごとを考える力	① ② ③ ④
(12) 教養(専門分野に限定されない幅広い知識)	① ② ③ ④
N	N
↑	↓
※左欄にも記入し正しくマークすること 学籍番号	氏名

資料7 事前調査

栄養科学科 令和元年度入学生 初年次教育 事後調査	
※ この調査は、成績とはまったく関係ありません。自分の正直な気持ちにしたがってこたえてください。	
1. 次に挙げる(1)~(6)の初年次教育の活動について、どのように考えますか? 次の4段階(「①全くない」「②あまりない」「③だいたいある」「④十分ある」)から最も当てはまるものを1つ選んでマークしてください。	
(1) 学習のスケジュールを管理したこと	① ② ③ ④
(2) プレゼンテーションの内容と資料の作成を自分一人で進めたこと	① ② ③ ④
(3) 他の人にプレゼンテーションしたこと	① ② ③ ④
(4) 他の人のプレゼンテーションを聞いたこと	① ② ③ ④
(5) 自分の選択した課題について調べたこと	① ② ③ ④
(6) 他の人の課題について考えたこと	① ② ③ ④
2. 次の(1)~(12)の能力や態度について、現時点では、どれくらい身に付いていると思いますか。次の4段階(「①全くない」「②あまりない」「③だいたいある」「④十分ある」)から最も当てはまるものを1つ選んでマークしてください。	
(1) 課題を設定する力	① ② ③ ④
(2) 自分で調べる力	① ② ③ ④
(3) 思考力(考える力)	① ② ③ ④
(4) 判断力(ものごとを正しく理解して自分の考えを決める力)	① ② ③ ④
(5) 能動的(自分から積極的に働きかける)な姿勢	① ② ③ ④
(6) 勉学に対する意欲	① ② ③ ④
(7) 課題解決に向けて深く追求する力	① ② ③ ④
(8) 新しい知見を創造する(知識をつくり出す)力	① ② ③ ④
(9) 事実や考えを人に伝わるように文章で表現する力	① ② ③ ④
(10) 事実や考えを人に伝わるように口頭で表現する力	① ② ③ ④
(11) 広い視野(範囲)から、ものごとを考える力	① ② ③ ④
(12) 教養(専門分野に限定されない幅広い知識)	① ② ③ ④
N	N
↑	↓
※左欄にも記入し正しくマークすること 学籍番号	課題 (A)・(B)・(C) 氏名

資料8 事後調査

平成30年度 初年次教育(PBL)のまとめ

1 「振り返りシート」(合同報告会の前に配布:5月30日)で求めた課題

二つの課題

- 1 初年次教育を終えて、あなたなりに感じたこと、考えたこと、学んだことを振り返り、まとめてみよう。
- 2 初年次教育の課題や、進め方について意見や要望があれば書いてください。

2 振り返りシートから上がった学生の感想や意見、要望等の概要

(意見の数)

- | | |
|---|-----|
| (1) グループで学ぶこと (協働学習) のよさについて | 130 |
| (2) 課題の内容や決定の仕方について | 20 |
| (3) プレゼンテーションの方法や能力の獲得について | 20 |
| (4) 高校までの学習と大学の学修との差異、PBL、今後の学び方について | 80 |
| (5) 交友関係について | 3 |
| (6) 社会で役立つ力 | 10 |
| (7) 設定時間や期間について | 2 |
| (8) グループによる調べ学習一発表という流れを経験したことはあるが、すべて一人で担当したのは、初めてである。 | 35 |
| (9) その他 | 22 |

3 振り返りシートにみる学生の具体的な声

(1) グループで学ぶこと (協働学習) のよさについて<130>

- ・ これから、取り組みの際は、自分1人でやるのではなくて、友達など他の人と共有しながらやると、新しいものが見えてきそうだなと思われました。
- ・ 他の人のプレゼンを聴くことでより学ぶ深めることができ、よかったと思いました。人の発表を聴くことによって自分の欠点も見えてきて良い機会になりました。
- ・ 他の人の発表をきいて「こうすることもできたな」や「こういう視点で考えられるな」など考えることはたくさんあった。
- ・ 他の人の意見を聞いて、「さらにこんな考えも…」と驚きました。自分の視点とは違った物の見方をしている人の話をきくのはとても楽しかったです。
- ・ 他の人の意見やアイデアを聞くことで、新たな発見ができ普段の生活でも色々なところで自分の意見も参考にしようと思いました。
- ・ 自分で考えたことを発表し、人の考えを聞くことで、自分自身の成長につながったと思います。
- ・ 友達のプレゼンを聞いて自分が思いつかないプランがあって感動しました。これからは自分の意見をしっかりと持ちつつ新しい意見や幅広い知識を身につけていきたいです。
- ・ 同じ課題を調べていた、それぞれ異なる考えがありとても面白かったです。
- ・ 自分と同じ課題の人の発表では、自分が思いつかなかったプランを提案して新しい発見をしました。
- ・ 他の人の発表をきいて、自分のプランや発表に足りなかったものを知ることができてよかった。また、自分が担当した以外の課題も考えるいい機会になったのでよかった。
- ・ グループ内で発表した時、「こんな考えもあるんだ〜!」と思いましたが、さらに、1学年全体での発表を聞いて、「さらにこんな考えも…」と驚きました。具体的な案を出し、その対策について、おもしろい企画もあり、参加しやすいなと思いました。
- ・ 自分だけでなく、特に他の人の発表を聞くことで、新たな考えが生まれました、自分のまわりの、次に気づくことができ、より深い学びができました。
- ・ 自分より周りのプレゼンテーションのレベルの高さを感じ、自分自身の能力を高める必要があると感じた。
- ・ 実際に子ども食堂を訪ねてみたという話を聞いてとても感心しました。

(2) 課題の内容や決定の仕方について<20>

- もっと各個人で幅広い意見が出るような(個人差が出るような?)テーマがあったらいいと思います。
- 課題のレベルに少し差があるように感じました。
- 課題を卒業に関するものや近いものにしたらいと思う。
- 外国で起きていることなどを課題として取り扱ってもいいと思いました。
- 日本だけでなく、海外についてのテーマでも良いと思いました。

- ・ 今の日本で起こっている問題を知ることができてよかったと思う。
- ・ 現代社会の子どもの食事にに関する課題なども深く知ることができ、これから管理栄養士になるにあたってどう自分が行動すればいいのか考えるいい機会になりました。
- ・ 私たちが栄養のプロとして、これに関わってくる社会問題がどのようなものなのかということが分かった。
- ・ 自分で課題を決めることができないということは、これから社会の中でもよくあることだと思うので、良いと思いました。
- ・ 自分の意志と関係無しにお題を決めて皆の前で発表するというなかなかできない体験ができました。同じお題の人でも考え方や意見が違ったりして新しいとらえ方ができました。
- ・ 課題をもうけられることで、今まで考えなかった健康福祉や、移動販売車について深く考えることができました。調べていくうちに、身近なものに関する新しい発見があり、取り組んで良かったです。
- ・ 自分がしたいのではないところがあったと思います。要望はありません。
- ・ ほかの人の発表を聞いて、同じテーマの人は自分とは違う視点で、自分もそれを取り入れれば、もっとよくなると感じ、そこを見つけて出せるのはすごいと思いました。違うテーマの人は、それぞれ違った意見を出していて、新しいをいっぱい感じました。
- ・ 課題は3つとも難しそう感じたけど全て人のためになる課題だと感じました。
- ・ 今の日本の問題なども詳しく知ることができたのでとてもためになりました。
- ・ 自分の課題を調べていく中で、日本で問題になっていることについて深く考える機会ができました。
- ・ 社会問題についても深く知って改善していきたいです。
- ・ 1人で課題に取り組み、また少人数の中で発表するというやり方がすごく良かったです。
- ・ 答えのない課題に対して自分一人で解決策を考えることの難しさを感じました。
- ・ 自分で課題について調べた中で課題の内容以外の社会問題について知ることができました。

(3) プレゼンテーションの方法や能力の獲得について<20>

- ・ 皆が見る企画書に、全部同じ大きさの文字に見にくく、逆に大小様々な文字を書きすぎても見にくいなど、工夫が必要だと思いました。また、グラフや絵を添えることで、更に見やすくなっていると感じました。発表する時、少人数の前だったけど、やっぱり緊張してしまい、堂々と発表できては喜ぶにすぎないと思いました。
- ・ 友だちのプレゼンテーションの仕方がこうしたら上手にできるということを知ることができました。プレゼンテーションは話し方や話の進め方を学ぶいい機会だと感じました。
- ・ もっと説明や発表がうまくなりたいと思いました。
- ・ なってくとと思うので、初年次教育のために、ありがたかったです。
- ・ 周りの人(9人)の発表がとても素晴らしいので、自分のと比較してしまいました。もう少し具体的に、分かりやすく、見やすさを重視して書けば良かったと思います。発表も緊張のあまり、声も小さく早口になってしまいましたが、代表の方は自分に自信があるように見えて素敵でした。次回発表する機会があったら参考にしたいです。
- ・ 5分という自分の意見をプレゼンをするとはとても難しいなと思いました。
- ・ 具体的なプランを考案デザインをしみんながわかりやすいようにプレゼンテーションすることは大変だった。将来的には教職を志すのでこれを活かして上手になっていきたいです。
- ・ 皆、はきははと発表していて、とても聞き入ってしまいました。私も、皆をひきつけるような話し方できるようにになりたいと思いました。
- ・ 選ばれた9人の人たちはやっぱり資料のまとめ方や発表の仕方が上手だな、と思いました。また、それぞれ考え方がいっぱいあって、おもしろかったです。
- ・ 自分の意見やアイデアを発表するときは簡単ではなかったけど、もっとプレゼン能力をつけなければいけないと思った。人のプレゼンを聞いていろんなことを参考にできた。

(4) 高校までの学習と大学の学修との差異、PBL、今後の学び方について<80>

- ・ 高校では、自分で考えて発表することをしなかったから、将来に、つなげていこうと思った。
- ・ 高校までとは異なり、課題提起するところから解決策を考えて伝えることすべてを自

分できたことは将来に役立つと思いました。大学4年間でこの力をもっとつけていきたいです。

- ・ 今回は高校生時には体験できなかった個人でのアクティブラーニングができとても良い体験ができました。
- ・ 今まで高校では先生の授業をきくだけだったけど、大学のこの初年次教育で自分で考え、実行するという新しいアクティブ・ラーニングの方法をやって、自分の能力が伸びたと実感できました。
- ・ 自ら調べて発表に向けて取り組むことはなかなか中・高では機会がなかったので今回周囲に自分の意見、自分の考えたことをわかりやすく伝えるということの楽しさ難しさが改めてわかった。大変だったけど身になったと思う。今日の発表者みんなすばらしく頑張った。
- ・ 受動的→能動的となったこの環境に慣れるための第一要件として良い練習となった。
- ・ 学んだことを生かしてこれからの人生につなげていきたいです。
- ・ 今後自分の課題を見つけた時はこの経験を生かして、上手く計画したり、工夫したりしたいと思ってる。
- ・ 自分なりに考えたり、他の人の意見を聞くことで感性がみがかれた気がしました。
- ・ 文章で表現する力や話し方身につけることができたと思います。
- ・ 今まで「みんなで考えて解決する」という学習だったけど、この授業は自分1人で考えて発表するというので、これからは社会に役立てる中でとても役に立ちました。これからは自分で学習する力、追求する力を身につけていきたいです。
- ・ これからは授業を聞いて面白くなく一層になって考えたいです。
- ・ これからは自分の意見を聞くことは大切だと思いました。
- ・ 一人でやるという、少しレベルの高い授業ができてよかったです。
- ・ 自分の調べた課題や他の人が調べた課題まで学ぶことで、今までは知らなかった知識を得ることができ、とても良い経験になりました。
- ・ これから、能動的に動いていけるように積極的に、向上心を持つっていいことだと思います。
- ・ 今後受動的ではなく能動的に行動できるように心がけていきたいです。
- ・ これを機に自分から調べたり興味を持つことで自分の視野を広げられたらと感じました。この取り組みで良い経験を積むことができました。

(5) 交友関係について<3>

- ・ 宿泊研修やチャートリアルでは、たくさんの人との交流があり、交流関係を広げられたと思う。
- ・ コミュニケーションは大切ですね。自分をもっと大切にしていこうと思いました。
- ・ 1〜4組全体で発表できたので知らない人も知ることができました。

(6) 社会で役立つ力<10>

- ・ 私たちが必要とされている力を知ることができました。ありがとうございます。
- ・ これからの時代、自分で考える力やプレゼンする力が重要だと思ってる。
- ・ 社会に出るにあたって、能動的な行動、1人でプレゼンといったことはとても重要で、将来このように企画をするときはたくさんあると思うので、将来に向けて人に分かりやすく伝えられる企画を作る能力をつけたいです。
- ・ これから社会にでたら1人でプレゼンということはたくさんあると思うので今回、他人のプレゼンをきいたり、自分の考えをまとめたことはいい経験になったなと思います。
- ・ これからの人生につなげていきたいです。
- ・ これから大人になったときに企画書を書いたりすることがあると思うのでそのための良い経験になったと思います。
- ・ これから社会に出た時もプレゼンは必須になってくるので、自分で考える力をもっとつけたいです。
- ・ 社会に出て通用できるような大人になって自分が考えるプランを相手に分かりやすく伝えられるようにしていきたいです。
- ・ 社会に出るから必要とされる企画力などを身に付けるきっかけになったと思う。

(7) 設定時間や期間について<2>

- 時間が少ないと感じました。
- 進め方の回数は、良いと思いました。

(8) グループによる調べ学習一発表という流れを経験したことはあるが、すべて一人で担当したのは、初めてである。<35>

- ・ は、初めてである。

(9) その他<22>

- もっと課題や日課、やり方を教えてほしいかったです。
- プレゼンテーションの方法や、発表についてももう少し深く知りたかった。
- 最初の全体説明会で資料の作り方をよくわかって説明してないのが個性ゆたかなプレゼンが聞けていいなと思いました。
- ・ 入学してすぐに初年次教育が始まって、この授業は必要なのかと正直思いましたが、やってみるといいです。自分課題を見つけて、解決策を導くということをしたことがなかったのが貴重な体験になりました。
- ・ 初めは、何の授業なんだろう?とぼくせんとしていたのが苦手で、課題について調べたり、考えたり、何かを見つけたら、その中で自分に足りないものを見つけていることができた。人のプランを聞くことで、考えが深まり、新しい発見があり、とてもためになりました。
- ・ 私は企画したり、プレゼンしたりすることが苦手で、発表のときも嫌だな、と感じましたが、みんなの発表を聞いて良い刺激を受けました。これから生活していく中で、こういう機会はまだあると思うので、初年次教育で学んだことを生かしていきたいです。
- ・ 自分で調べていて、日が進むごとに新しいアイデアが浮かんで1日で調べ作業するよりも何日も調べ作業した方が多くの知識を得ることができました。
- ・ 今回、1人で調べ、一人ひとりで課題解決のプランを考えて、みんなの前で発表するということで、最初はとても重い悩みました。実際に、調べたりしていた時は、迷って大変だったし、発表の仕方も悩みました。でも、頑張ってやりとげた時の達成感、他の人の色々な考え方に触れることができて良かったです。今後に役立てたいと思います。
- ・ はじめは、気難しそうな授業の印象があったけど、自分から能動的に活動することの大切さ学びました。人前で話すことが苦手だったけど、自分が一生懸命に考えたプランを発表し終えた後は達成感がありました。とても良い社会経験になりました。
- ・ 1グループ8人ぐらいで分かれて、みんなで意見を出し合うシステムが楽しかったです。
- ・ 1人で課題に取り組み、また少人数の中で発表するというやり方がすごく良かったです。
- ・ もっと多くの人のプランをききたいと思いました。
- ・ 準備をして頂き、ありがとうございます。
- ・ また、個人で考えて案を立て、グループで話し合いができる機会がほしい。
- ・ 今回はグループの人や代表の発表という、限られた発表しか聞けなかったのも、もっと多くの人の発表をきいて参考にしたいと思いました。
- ・ 全員が前で発表できるくらい意欲的に授業を受けることが大事だなと思いました。
- ・ 答えのない課題に対して自分一人で解決策を考えることの難しさを感じました。また、正しい情報を収集すること、収集した情報を自分でまとめること、聞く人に分かりやすく伝えることの難しさを感じました。でも、初年次教育を通して、それを学び、少しは力がついたらかなと思うので良かったです。
- ・ 初めての経験だったので何をしていたかわからなかったけど、自分なりに考えたり、他の人の意見を聞くことで感性がみがかれた気がしました。

□次年度、改善すべき点

- ・ 代表選考に学生票が欲しい。
- ・ 合同報告会前にリハーサルの時間があるともう少しゆとりをもってきてほしい。
- ・ パワーポイントでの表の説明の際の文字が見えづらかったです。

(答申)

藤田哲也,「初年次教育の目的と実際」,リメディアル教育研究,第1巻第1号,2006

中央教育審議会答申(2012),「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて一生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(答申)

寺嶋吉保,森和夫,川野卓二,永廣信治,佐野壽昭,玉置俊晃,「チュートリアル教育の改善に関する研究—チュートリアル教育導入のための学生ワークショップの試行とその成果—」,大学教育研究ジャーナル,第2号,2005

荻本逸郎,「令和元年度 栄養科学科 初年次教育指導の手引き」,2019

萩尾久美子,「令和元年度 栄養科学科 初年次教育ワークノート」,2019

水越俊行,「教育方法改善シリーズV学習評価の改善」,国立教育会館,1995